

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	数理工学 Mathematical Engineering		単位 2
	一般・専門の別・ 学習の分野	専門・自然科学系基礎・共通	授業形態・学期	講義・前期
	対象学生	MS－2，EC－2	必修・選択の別	選択
教員に かかわ る情報	担当教員・所属	横谷正明・一般科目（理）		
	研究室等の連絡先	研究室：管理・一般科目棟 3 階（電話：8183, yokotani@tsuyama-ct.ac.jp）		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	数物系科学／数学／数学一般		
	専攻科学習目標との 関連	本科目は専攻科学習目標「(1) 数学，物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め，機械・制御システム工学および電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用する能力を身につける。」に相当する科目である。		
	技術者教育 プログラムとの関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A) 技術に関する基礎知識の深化，A－1：工学に関する基礎知識として，自然科学の幅広い分野の知識を修得し，説明できること」である。		
	授業の概要	工学において発生する問題を解決するひとつの手段として，現象の本質をとらえ，わかるところから切り崩していくことが考えられる。そんなとき役立つものの見方，方法を学ぶことが本講義の意義である。トポロジーは，図形を連続的に変形しても不変に保たれる性質を調べる学問であるが，このことを通じて不変性，すなわち本質をとらえるものの見方を学ぶ。		
	学習目的	トポロジーとその考え方を学ぶ。		
	到達目標	1. 工学の基本的問題を解決するために必要な数学の知識，計算技術および応用能力を習得する。 2. ユークリッド幾何学とトポロジーについて理解する。 3. ユークリッド空間とその図形について理解する。 4. 図形の変形と写像について理解する。		
履修上の注意		本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1 単位あたり授業時間として 15 単位時間開講するが，これ以外に 30 単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。		
履修のアドバイス		予習，復習を必ず行い，また自力で演習問題を解くことによって講義内容をより深く理解していくことが大切である。		
基礎科目		基礎数学Ⅰ（1 年），基礎数学Ⅱ（1），微分積分Ⅰ（2） 微分積分Ⅱ（3），基礎線形代数（2）		
関連科目		各専門学科の科目		

授業にかかわる情報				
授業の方法			板書を中心にして授業を進めていくが、同時に演習時間を出来るだけ多く設け、講義内容をより深く理解し、更に自力で問題を解く力が身につくように配慮する。	
授 業 計 画	開講週		授業時間内の学習内容〔項目〕 (指示事項)	授業時間外の学習内容〔項目〕 (指示事項)
	前 期		全授業が 15 週を超える場合もある。	
		1 週	● ガイダンス、ユークリッド幾何学	レポート課題（１）「ユークリッド幾何学とトポロジー」
		2 週	● 相似幾何学	
		3 週	● トポロジー	
		4 週	● 等長変換と合同変換	
		5 週	● 演習（ユークリッド幾何学とトポロジー）	
		6 週	● 距離とユークリッド空間	レポート課題（２）「ユークリッド空間とその図形」
		7 週	● 図形	
		8 週	● 図形の工作・グラフ・自己相似な図形	
		9 週	● 集合と論理	
		1 0 週	● 演習（ユークリッド空間とその図形）	
		1 1 週	● 図形の変形	レポート課題（３）「図形の変形と写像」
		1 2 週	● 写像	
		1 3 週	● 数列と図形の点列	
		1 4 週	● 演習（図形の変形と写像） (試験)	
1 5 週	● 後期末試験の答案の返却と解説			
教科書，教材等		教科書：大田春外著 はじめよう位相空間（日本評論社） 参考書：大田春外著 解いてみよう位相空間（日本評論社）		
成績評価方法		定期試験（70％）とレポート（30％）で評価する。成績等によっては、再試験を行う（レポート課題を課す）こともある。		
受講上のアドバイス		講義内容をよく理解し、自分で問題を解くことが重要である。自力で解法を見出すことを大切にしてほしい。 遅刻の回数が多い場合は、警告を行った後、欠席扱いとすることもある。		